

第1回北海道地域学校協働活動推進協議会（道央会場）

【道央】平成30年7月3日（火）（札幌市・道庁別館地下1階大会議室 他）参加者：90名

1 説明「地域学校協働活動推進のポイント」

説明者 石狩教育局教育支援課社会教育指導班主査

清水 秀 紀

石狩振興局保健環境部社会福祉課子ども子育て支援係長

村 下 理 佳

「地域学校協働活動推進のポイント」として、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の関係についての説明や、市町村の特色を生かした具体的な取組事例、放課後児童クラブの運営指針や放課後児童支援員の認定等についての説明がありました。

参加者からは、「コミュニティ・スクールや地域学校協働本部などの基本的な部分に触れていただき、わかりやすかった。」「地域学校協働活動の大切さがわかりました。」などの感想が寄せられました。



2 講義・演習「障がいのある子どもや特別な支援を要する子どもへの対応について」

講師 石狩教育局教育支援課義務教育指導班指導主事（特別支援教育スペシャリスト）

音 羽 孝 文

特別な支援を要する子どもが、どのようなことを困難と感じているのかについて、疑似体験を通じて、理解を深めるための演習が行われました。

読むことや自己コントロールなど、子どもたちが困難を感じると想定される場面が提示され、参加者は話し合いを行いながら、対応のポイントについて学びました。

参加者からは、「発達障がいの子どものように思っているのが理解できた。」「子どもへの声かけや、接し方などを学ぶことができました。」などの感想が寄せられました。



3 選択研修

A 演習「子どもの体力向上につながるプログラム」

講師 NPO法人 きたひろちよいスポ倶楽部理事長
理事

鈴木 ゆかり 氏

中野 淳 氏

異学年同士の場合や子どもに体力差がある場合でも楽しく取り組めるプログラム、狭い場所でも手軽に体を動かすことができるプログラムについての演習が行われました。

参加者からは、「すぐに子どもたちとやってみたいと思える体力づくりのプログラムでした。」「子どもへの指示の出し方についても勉強になりました。」「体力向上のための指導ポイントについて解説があり、わかりやすかった。」などの感想が寄せられました。



B 演習「自然体験・外遊びを促すプログラム」

講師 国立大雪青少年交流の家企画指導専門職付
(北海道体験の風をおこそう推進協議会事務局職員)

石川 恵理 氏

自然体験や社会体験などの体験活動の有用性や、リスクマネジメントの基本的な考え方についての説明があり、その後、会場内に潜む危険箇所を探し、参加者同士で交流する演習が行われました。

参加者からは、「体験の重要性やリスクマネジメントについて、分かりやすく学ぶことができた。」、「実際にヒヤリとする場面があっても体が動かないことがわかった。今後に生かしたいと思う。」、「参加者との意見交流の時間があり自分では気づくことができない視点についての話を聞くことができた。貴重な時間となった。」などの感想が寄せられました。



C 演習「科学に興味を持つサイエンスプログラム」

講師 札幌市青少年科学館職員

手島 駿 氏
本間 玲 氏

実験を行うときの注意事項や、どのように見せると子どもたちの興味を引くことができるのか、予備実験の大切さなどについて説明がありました。

また、参加者それぞれが、実際に偏光板を使った簡単な工作実験を行い、実験をとおして科学の仕組みの理解を深めました。

参加者からは、「とても楽しい実験で、帰ったら取り入れたいと思います。聞き手を惹きつける話し方も参考になりました。」、「実験をするときの注意事項や事前準備の大切さがわかりました。」、「科学が好きになる内容で、実際にやってみたいと思いました。」などの感想が寄せられました。



D 演習「いろいろな文化体験プログラム」

講師 北海道総合政策部国際局国際課国際交流員

シュースター エミリー 氏

「フルーツバスケット」や「色鬼」など、身近な遊びに英語を取り入れ、小学校低学年から楽しめる活動が紹介されました。

また、英語の歌を歌いながら簡単な英単語を聞き取ったり、英文を学んだりする活動が行われました。

参加者からは、「楽しんで英語に触れることができた。」、「英語だからといって難しく考えず、楽しくやってみようと思った。」、「座学ではなく、体を使うことで英語がより身近で楽しいものになると感じた。」などの感想が寄せられました。

